

第2回 愛南町御荘地区沿岸津波対策検討委員会

住民の合意形成方法について

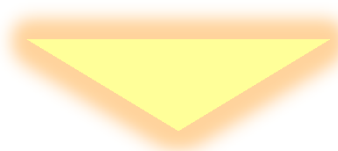
構 成

- 1. 住民合意形成の対応方針 1
 - (1) 第1回検討委員会に示した手法
 - (2) 住民合意形成の手法
 - (3) 住民合意形成の対応方針
- 2 アンケートの実施計画 4
 - (1) アンケートの実施方法等

1 住民合意形成の対応方針

(1) 第1回検討委員会に示した手法

| 手法 | ①アンケート | ②代表者会 | ③住民意見交換会 |
|--------|---|---|---|
| イメージ |  |  |  |
| 概要 | 調査票を配布・回収し、対象者の意向を把握する調査 | 地区の代表者や関係者の参加を募り、意見交換を行う手法 | 多くの住民に対して参加を呼びかけ、意見交換を行う手法 |
| 対象者の規模 | 数百人～数千人 | 数名～十数人 | 数十人 |



【第1回検討委員会の意見】

- いくつかの方法を組み合わせることが必要
- 海の近くに住んでいる人の意見を聞くことが必要
- 漁業関係者や海岸沿いの住民に対して、意見交換会といった対応が必要ではないか

1 住民合意形成の対応方針

(2) 住民合意形成の手法

| 手法 | ①アンケート | ②代表者会 | ③住民意見交換会 |
|--------------------|--|--|--|
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い意向把握が可能 ・ 無記名による調査のため、ありのままの意向の把握が可能 ・ 取組みの周知といった広報機能も期待される | <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換を通じて地区の代表者や関係者の意向を把握できる ・ 参加者の理解を深めることが可能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある多くの人に対して理解を深めることが可能 ・ 地区別に開催するといった対応も可能 |
| 課題・留意事項 (デメリット) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 回収率が低くなることが懸念 ・ 内容が理解されないまま回答される恐れがある | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の人を対象とするため、地区の総意にならない可能性がある ・ 声の大きな人に影響される場合がある | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人数が多くなった場合、議論がまとまらない可能性がある ・ 声の大きな人に影響される場合がある ・ ある程度の案が固まった段階で行うことが多く議論の場としては弱い |



- ・ 幅広い住民意向の把握、細やかな意見をひろいあげること等を主目的に、今回の住民合意形成手法として、アンケート調査を提案する。
- ・ アンケート調査の実施にあたっては、デメリットを解消する工夫を検討する。

1 住民合意形成の対応方針

(3) 住民合意形成の対応方針

■ 段階的な対応

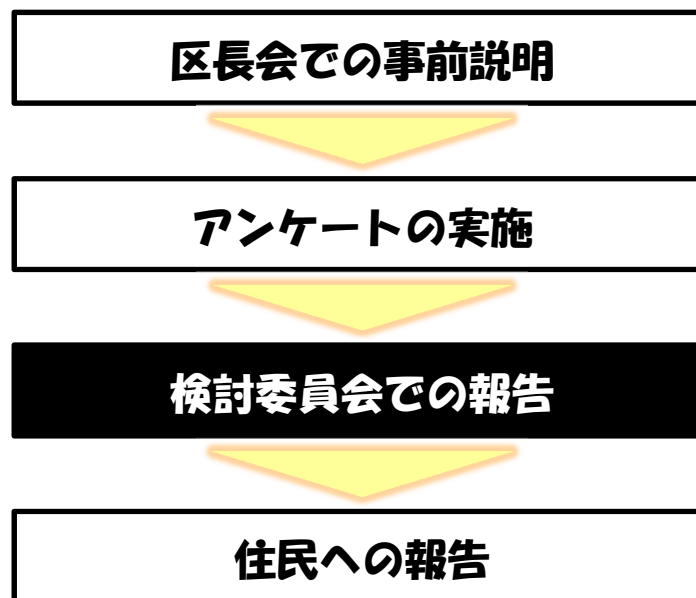
- ・ **区長会での事前説明**を行ってからアンケート調査を実施。

■ 幅広い住民意向の把握

- ・ **津波浸水想定区域内の地域住民（全世帯）**を対象としたアンケート調査により、幅広い住民意向の把握。

■ 調査結果の報告

- ・ アンケート調査結果をホームページや広報等を用いて地域住民へ報告。



2 アンケートの実施計画

(1) アンケートの実施方法等

■対象者

- ・ 3 海岸の**浸水想定区域内**に位置する地区の住民（**全世帯**）
- ・ 配布数は**約1,940世帯**

（御荘地域：下記の15地区、約1,560世帯、城辺地域：下記の9地区、約380世帯 H27.4現在）

【御荘地域】長洲、長崎、貝塚、八幡野、本町、寺新町、栄町、上町、馬場、下永ノ岡、上永ノ岡、節崎、馬瀬、深泥、防城成川

【城辺地域】後1、後2、後3、清水、沖1、沖2、久保、中原、土居

■実施方法

- ・ 区長（行政協力員）の協力を得た配布・回収
 - 郵送による配布・回収よりも、**回収率が高くなることが期待**される。
 - 多くの住民からの回答により、**細やかな住民意向の把握**を行う。
- ・ 調査票とあわせて**整備方針に関する説明用資料を添付**
 - 回答者の**堤防整備等に関する理解を高め**たうえで回答していただく。